

平成 26 年度 第 1 回大阪府立布施高等学校学校協議会 概要

■日 時 平成 26 年 11 月 19 日（水）15:05～17:03

■場 所 大阪府立布施高等学校 校長室

■出席者 協議会委員：久委員長、金成委員、塩尻委員

（欠席）有田委員、浦田委員、富廣委員

事務局：中山校長、川崎教頭、峯近教頭、富山部長、伊藤政、麻生、竹内

1. 校長あいさつ

2. 施設および授業見学

3. 学校経営計画 進捗状況（中山校長）

・進路希望と進路先の推移

3 年当初の「未定」の者←いかに減らしていくか

本年度は就職希望者 14 名で例年より多い

・遅刻数の推移

月、木、金に朝小テスト実施

2 年生から遅刻数増加

アドバンスコース（本年より実施）－学習に取り組む姿勢が感じられる

・講演会 西大和学園理事長 田野瀬氏、灘高等学校 木村達也氏

・夏休み語学研修実施（オーストラリアケアンズ、20 名参加）

・短期留学生の受け入れ

4. 取り組みの進捗状況（各分掌報告）

（1）進路指導（H26 年度進路状況・麻生）

例年より、大学希望者が減少

就職希望生徒の増加（去年の倍）が影響？←金銭的問題が影響か

大学合格推移（現時点）

・昨年より合格率高い（特に看護医療系）

・センター受験希望－去年の 20%増

（2）学力向上に向けて（学力向上委員会・伊藤政）

・朝小テスト一月、木、金（6 時間授業日）

学力向上させるチャンス、ととらえる生徒にとっては非常にプラス

・授業力向上

- 授業相互見学

(3) 標準服の改訂について（竹内）

5. 学校改善に向けて（協議）

- 遅刻の状況と成績の相関

→データとして示すことができると、課題がはっきりする

生活態度を変えないと、せっかくのポテンシャルが活かされない

ポテンシャルからいえばもう少し上まで行けるが、妥協してしまう

→「保護者に返す」ことをしていけないとだめ

保護者の責任を明確に。遅刻への対応、元気なあいさつ

保護者、地域の力を借りるのも必要

※課題をできるだけ早くキャッチして、対応。課題を共有して共に考える

信頼関係を醸成し、生徒、家庭との円滑なコミュニケーションを

- 学校生活へのモチベーションアップ

→先生自身が、自分がどう変わるかを考える

自分をどう変えていくかを考える方が、相手を変えるより早いし簡単

→「こういう大人になりたい」と思わせるきっかけづくり

魅力的な大人（大学生）が見つければ、「こういう人になりたい」と伸びていく

- 社会でマナーが欠如しつつある。学校での教育は重要

→大人の態度を学ぶことの重要性

服装は緊張感を表していることもある

標準服を着させるのは、ある意味での緊張感を植え付ける意義があるのでは

→親の教育力が重要

変わってくださる親がある程度いると、全体が変化してくる

どのように全体に訴え、変わってくれる親を増やすか

→子どもたちの逃げ場も大切

閉ざしてしまった生徒が逃げ場とできるのが図書館

利用しやすい図書館づくり。すべての教科で読書の奨励を

読書への入り口をたくさん作ってあげる

- 学校の個性の表出

→文化活動、体育活動、ボランティアなど何でも

「預かったレベルを保って卒業させる」

「菜の花運動」も大きなポイント
地域との積極的な交流も、非常に有益な学校の個性
職員一丸となった生徒の指導を
積極的な広報活動。プレスリリースも

以 上